

平成23年12月

濱本佑樹 学位論文審査要旨

主 査 林 一 彦
副主査 井 藤 久 雄
同 豊 島 良 太

主論文

Prognostic significance of Minichromosome maintenance protein 7 and Geminin expression in patients with 109 soft tissue sarcomas

(ヒト軟部肉腫109例におけるライセンス化因子Minichromosome maintenance7、Gemininの予後的意義)

(著者：濱本佑樹、庄盛浩平、野坂加苗、春木朋広、豊島良太、井藤久雄)

平成 22 年 ONCOLOGY LETTERS 1 巻 703 頁～709 頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、ヒト軟部肉腫におけるMinichromosome maintenance 7 (MCM7) とGemininの発現の臨床的意義を、既存の増殖活性因子であるKi-67発現と比較し検討を加えたものである。その結果、MCM7とGemininの発現はKi-67の発現と正の相関があり、高発現群は低発現群に比べ有意に予後不良であることが分かった。単変量解析では遠隔転移の有無、組織学的悪性度、MCM7、Geminin、Ki-67の発現が有意な予後予測因子となり、多変量解析ではGemininの発現が独立した予後予測因子となることが判明した。以上より、軟部肉腫においてMCM7、Gemininは既存の増殖活性因子であるKi-67と同様に有用な予後予測因子となりうることを示された。本論文の内容は、軟部肉腫の予後予測因子としてのMCM7とGemininの意義について解明したものであり、明らかに学術の水準を高めたものと認められる。